

人生楽ありや苦もあるさ！

<令和4年3月18日(金) 令和3年度終業式>

令和3年度は、本日で最後の授業日となりました。先月、これまでの道のりを「振り返る」ことの大切さについてお話をしました。

皆さんも、この一年間を振り返ると、一人一人様々な思いが駆け巡ることだと思います。

私自身の一年間を、「喜怒哀楽」の順番で、振り返ってみたいと思います。

<喜 1番うれしかったこと>

卒業式で、3年生のマスクをとった顔を確認しながら、137名すべての3年生一人一人に、この体育館で、卒業証書を手渡すことができたことです。

これは、決して当たり前のことではありません。感染症対策でマスクをつけたままの証書授与という学校もたくさんありますし、病気等で欠席者が出る場合もあります。中には、日常的になかなか学校に来れない生徒に、校長室などの別の場所で、別の時間に証書の授与を行ったり、場合によっては家庭訪問して証書を手渡すことも珍しくないことなのです。

でも、今年度の山潟中学校は違いました。初めて3年生全員の素顔を見ることができました。すべての生徒がこの場（体育館）でしっかり卒業していきましました。その一点からも3年生のすばらしさが窺い知れます。心の底からうれしかったです。

<怒 1番腹が立ったこと>

何度も何度も、いじめや他人が嫌がる言動を厳しく戒める指導や注意を繰り返しているにもかかわらず、ネットや集団内での非難や中傷等のトラブル、アンケート等をすると、嫌なことをされたり言われたりしたことがあるとの記述が、依然としてあることです。

もちろん、いじめ0は究極の目標であり、現実的にはその課題の克服は厳しいものかもしれません。また、今年度人の生死にいたるような重大事案がなかったことは幸いだと思っています。でも、たまたまかもしれません。

そして、私が怒っているのは、そういうことをしている当事者に対してというよりも、そういうことが今なお現実として起こっているという事実そのものに対してです。

<哀 1番悲しかったこと>

今年も、新型コロナウイルスに翻弄され、皆さんに窮屈で辛抱をしてもらう場面がたくさんありました。特に、2・1年生にとっては、新人戦や部活動の期間がなくなったり、学級閉鎖の措置を取らざるを得ない場面もありました。

このような状況下、みんなや先生方を鼓舞しながら、いろいろな我慢や創意工夫をお願いし、それにしっかり応えてくれたことに感謝する一方、このようなコロナ下の状況を、仕方のないこととはいえ、いつまで続くのだろうという不安を感じる度に、私自身も、正直悲しい気持ちになることは何度となくありました。

<楽 1番楽しかったこと>

愛すべき皆さんやすばらしい先生方と出会えたこと、そして共に数多くの充実した活動を実現できたことです。タブレットが導入されて、新しい学習のあり方に必死に取り組む皆さんや先生方の姿を目の当たりにすることができました。白翔祭や合唱発表会をはじめとする各種学校行事や、部活動の大会や発表会、練習試合、地域のボランティア活動など、様々な場面で大活躍する山潟中学校の生徒の姿を目にすることができました。

さて、人生は、言うまでもなく、うれしいことや楽しいことばかりではありません。どんなに努力をしても、課題を克服しても、つらいことや悲しいことも含めて、山あり谷ありの連続。それが人生です。今年度も、我々一人一人が何とかつらいことや悲しいことを乗り越えられたとしたら、それは自分が一人ではなかったからです。だれかに支えられてきたからです。逆に、まだつらいことや悲しいことを乗り越えられない現状にいる人がいるとしたら、それはまだまだ周囲の支えが足りないのかもしれないかもしれません。

あと約3週間で新入生を迎えます。また、先生方の顔ぶれも変わるかもしれません。今年度の自分自身の生き方を振り返り、来年度も、自分が出会い自分が接するすべての人と、喜怒哀楽を共有し、お互いが充実した学校生活、お互いが豊かな人生を歩むための、たゆまぬ努力を継続して行ってほしいと願っています。

私たち先生方がどんな指導をしたとしても、それより勝るものは、皆さんが後輩に見せる後ろ姿です。

来たるべき令和4年度、新3年生は、2年生にとって目標とすべき姿としてのモデルになれるよう、新2年生は、1年生にとってのあこがれの存在になれるよう、さらなる活躍と飛躍を大いに期待しています。

任せたぞ新3年生、頼むぞ新2年生！